

ほうとくエネルギー株式会社 設立趣意書

基本理念

1. 将来世代に、より良い環境を残していくために取り組む。
2. 地域社会に貢献できるように取り組む。
3. 地域の志ある市民、事業者が幅広く参加して取り組む。
4. 地域社会に根ざした企業として、透明性の高い経営をする。

エネルギー問題を自分の問題として

現代の我々にとってエネルギーは必須である。エネルギーがなければ、日々の生活をおくることは困難であり、企業は経済活動を行うことができない。しかしながら、これまでエネルギーは当たり前のように安定して供給されるものであるとの認識の下、そこに様々な問題が内包されていたにも拘らず、それらが国民的な関心事になることは多くなかった。

しかし、東日本大震災はそういった状況を一変させた。災害時のエネルギーの安定供給や、安全性、コスト、使用済み核燃料処理などの原子力発電に関する様々な課題、各種エネルギー構成比率など、気候変動問題も含めたエネルギーを巡る様々な問題が、まさに今、国民的な議論の俎上にある。

こうした国民的な関心の高まりを背景として、各地域からエネルギーを考える動きが次々と起きている。東日本大震災の教訓を踏まえ、エネルギーの集中生産体制に単に依存するだけでなく、それぞれの地域ができるかぎり分散してエネルギーを生み出す、いわば、エネルギーの地域自給を目指す必要が強く意識され、全国各地で具体的な取り組みも始まっている。

小田原での取り組み

その大きな潮流を先駆けるように小田原においても、市民、事業者、行政が参画する「小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会」が立ち上がり、再生可能エネルギーの事業化へ向けた仕組みづくりを中心とした精力的な検討を行ってきた。その結果、再生可能エネルギーの創出と地域への貢献を同時に達成する仕組みづくりについて、一定の結論を得て、この仕組みを実行に移す段階にきた。

なぜ地域での再生可能エネルギーなのか？

ここで、我々がエネルギー事業を実施するに当たって、その目的や意義を明らかにしたい。

まず、再生可能エネルギーの導入は環境問題への有効な解となること。地球規模では気候変動問題の有効な緩和策であると同時に、様々な問題点を抱えライフラインを支えるエネルギーとして国民の合意を得ることが難しくなっている原子力発電への依存から脱却し、将来世代が安心して生活を営むことの出来るより良い環境を引き継いでいくために重要であると考えます。

次に、再生可能エネルギーの導入は地域の活性化と自立に大きく貢献する可能性があること。これは、地域における関連産業の発展や新たな雇用の創出、事業で得られた収益の地域への還元などが期待出来ることは当然として、化石燃料の輸入費用として、市外、最終的には国外に流出していた資金を地域内で循環させることが可能となり、地域経済の活性化に資すると考えられるからである。また、公共施設などの拠点に再生可能エネルギーを始めとする分散型のエネルギー設備が導入されれば、災害時等にエネルギーの供給が途絶えた場合にも、最低限の対応が可能となり、地域の防災力の強化にも貢献することが可能と考えられる。本来、エネルギーとは我々の日々の生活に根差したものであり、地域のエネルギーを単に誰かに任せるのではなく、地域の人々が主体的に関与することが重要である。地域の人々が、再生可能エネルギーの導入に関わらなければ、再生可能エネルギーから得られる利益を地域に還元する効果も薄れてしまう。その意味でも、地域の人々の主体的な関与が重要である。

小田原の可能性と優位性

小田原とその周辺は、都市、工場、住宅、農地、森林、河川、海、火山などの要素がすべてそろったポテンシャルのある地域である。かつては、小田原市内の河川や用水路で水車が広く活用されていた。さらに、市内西部では、小水力発電が行われ、木材の製材に利用されたり、紡績工場に供給されたりしていた記録もある。我々はこれらの地域資源を積極的に活用するとともに、市民、事業者の幅広い参画を得ながら、エネルギーの地域自給を目指し、我が国、ひいては世界をリードする事業を作り上げて行くべきと考える。

より良い環境を引き継ぐ

郷土の偉人である二宮尊徳翁は、あらゆる人やものには“徳”があり、この徳を引き出して世の中のために役立てる「報徳（ほうとく）」の教えを説いた。現代でもこの教えはこの地で脈々と続いている。これに基づきエネルギーに関する理念を次のように考える。

「報徳」：地域に眠っている未利用資源である水、光、木、熱などのエネルギーを自ら掘り起こしていく。

「分度（ぶんど）」：自分たちが本当に必要としているエネルギー量を知り、その分内で生活や営みを立てる。

「推譲（すいじょう）」：人道は自然ではなく、作為のものである。何ごとでも自然に任せればみんなすたれる。だから、人たるもの知恵はなくとも、力は弱くとも、今年のを来年に譲り、子孫に譲り、他人に譲れば、必ず成功する。その上に、さらに恩に報いていく。

こうした尊徳翁の考えを受け継ぎ、将来世代に、より良い環境を引き継ぐことを責務とし、未来のために行動することを目的に「ほうとくエネルギー株式会社」を設立することとした。

以上

※報徳の教えと自然エネルギー

かつて天明・天保の大飢饉の世に生まれながら、この間 600 ヶ村にも及ぶ農村復興を成し遂げた我が郷土の偉人である二宮尊徳翁は、自然の理のなかで人間が営む社会や暮らしについて「天道(てんどう)と人道(じんどう)」という言葉を用いながら、人の生きるべき、あるべき道を説きました。

この地球上で暮らす我々の世代が、未来の子供たちにより良い環境を引き継ぐためには、今一度、天道と人道との調和を図ること、私たちの分度を再考し、自然と共生することが重要なのだと思います。今後、私たちはこれを実現するために、この「報徳思想」を理念としながら、経済政策をも含んだ中長期的な視野に立って、この地にある徳、つまりは自然エネルギーをもう一度見だし、至誠・勤労の精神で新しい技術革新を生みだし、分度・推譲の精神で地域の連携を生みだし、地域は地域の力で、徳を以って徳に報いるエネルギー政策の実践をしたいと考えます。